

# 社会司牧通信



202604

★印はカトリック関連

平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスクでは、教会が社会へ発信しているメッセージや社会の中で活動する団体の情報をお知らせします。社会へのチャレンジの第一歩として、積極的にご参加ください。

## 主のご復活おめでとうございます



### ★[レオ十四世、2026年3月19日、使徒的勧告『愛のよろこび』\(Amoris Laetitia\) 発布10周年にあたってのメッセージ | カトリック中央協議会](#)



教皇レオ十四世は、使徒的勧告『愛のよろこび』発布10周年にあたり、その実りに感謝するとともに、家庭と結婚の福音を新たに生き、伝えるよう呼びかけた。家庭は「社会の基礎」であり「家庭の教会」として信仰伝達の中心的役割を担う。同文書は、現代の変化の中で、家庭の現実にも耳を傾け、弱さに寄り添いながら愛を育む司牧の重要性を示している。また、結婚と家庭の愛は不完全さの中でも本物であり、希望と恵みによって支えられると強調する。教会は、若者への結婚の召命の提示や困難を抱える家庭への支援を強めつつ、家庭を通じて福音をあかす使命を刷新する必要がある。そのため2026年10月に司教協議会会長会議を招集し、現代の家庭への福音宣教のあり方を共に識別することが発表された。



### ★[シノドス第16回通常総会、研究部会最終報告書：第3部会 |](#)

#### デジタル環境での宣教 報告概要

洗礼を受けたすべての人は福音宣教に招かれており、現代においてはデジタル環境も重要な宣教の場とされている。デジタルは単なる道具ではなく一つの文化であり、教会はその中で人々と出会い、対話し、共同体を築きながら福音を伝える使命を担う。

この環境は、声なき人々に寄り添う機会を広げる一方で、分断や操作などのリスクも伴う。そのため、信仰は現実の共同体や秘跡と結びつきつつ、慎重に育まれる必要がある。

教会はデジタル時代に適応しながら、耳を傾け、参加し、責任を分かち合う「シノダリティ」を深め、継続的な学びと識別を通して、創造的に福音宣教を進めていくことが求められている。



### ★[WYD ソウル 2027](#)

ワールドユースディが来年、韓国ソウルで開かれます。

・教区での日々 2027年7月29日(木)~8月2日(月)

・本大会 2027年8月3日(火)~8日(日)

世界中の青年が、ソウルにやってきます。

せっかく韓国まで来たのだから、足を延ばして、日本(広島)に、訪問を計画している巡礼団もあるようです。

広島からも多くの青年が参加できますように！



## 『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』(11)「聖なる負い目」

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ  
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)



マコの大好きな本『植物と叡智の守り人』における「来た道を戻り、道の脇に置き去られたものを拾い集めなさい」という言葉を、反芻してみる。私たちが置き去ってきたものは何だろう。その一つを石としてイメージしてみる。オレンジ色に光っている石。マコ的に名づければ、Sacred Responsibility、“聖なる負い目”の石だ。

韓国の友人のダンビが以前、こんな話をしてくれた。韓国の大統領の不正義を糾弾するために光化門に集まった民衆たちの、その熱い気持ちの奥にあるものは、この世界の苦しみに自分は責任があるという「負い目の気持ち」だったのだと。その負い目の気持ちによって韓国の市民たちは連帯できたのだ、とダンビは語ってくれた。

その話に呼応するかのように感じたことを思い出す。瀬川神父が指導してくれるエコロジカルな黙想に参加した時のことだ。その黙想会のテーマは、「人間によって傷つけられている自然と私たちの罪」だった。瀬川神父は、日本社会が抱えている環境問題とその背景にある社会の構造について話をし、自分自身の体験を分かちあってくれた。瀬川神父さんが力を入れてきたのは、日本の植民地主義に向き合い、アジア諸国と和解を築いていくことだ。瀬川神父が韓国に滞在していた数年前の話だ。韓国の若者たちにどうしても伝えたいことがあった。それは「ごめんなさい」という気持ちだった。日本社会の一員として、過去に日本が韓国にしてしまったことを謝りたかった。そして、ミサの時にその気持ちを韓国の青年たちに伝えた。「ミアナムニダ（ごめんなさい）」と。そうすると青年たちとの関係が変容されたのだ。それまでであった見えない壁が溶けたように、彼らの輪の中に招き入れてもらった。「ミアナムニダ」の力。

そして、それは自然に対しても言えることなのではないか。私たちは、地球を傷つけてしまう社会構造の中でその一部として生きている。誰もが、この地球の痛みを負い目と責任を持っているのではないか。

そんな瀬川神父の祈りへの導入の話を聴きながら、マコは抵抗も感じた。「過去の日本がした過ちに、若者である私がどんな責任があるの?」「今、こうして地球が悲鳴を上げていること、どこか遠い世界で山が崩されていること、そのことになんで私が責任を感じなきゃいけないの?」



そんな思いを抱えながら、黙想の家に庭を散歩してみた。大きなヒマラヤ杉を撫でてみる。その手に触れる杉の感触を味わいながら、「ああ、さみしいな」と思った。黙想で他の人と話せないからさみしいんじゃない。私が、もし自分はこの世界の痛みに関係がない、地球の痛みに関係ないと思ったら、このヒマラヤ杉と、この大地と私は何の関わりもなくなってしまうんだ。ひとりぼっちなんだ。たとえ日本の友人たちが自分にはいたとしても、でも、韓国の人々の痛み、この自然の痛みに関係がないのだと切ってしまうんだしたら、ダンビの言う負い目の連帯に自分が繋がることできないんだ。それってなんてさみしいんだろう。そう思うと、頬を涙が伝ってとまらなくなった。気づけば「ごめんなさい、ごめんなさい」と、杉に触れながら、マコはこの地球へと語りかけていた。

(つづく)

★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口：広島教区人権擁護デスク★

受付時間 木曜日（祝日を除く）9:00～16:00 電話番号 082-555-1127

メール：[desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp](mailto:desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp)

\*\*\*H・Social\* \*H・Social\* \*H・Social\* \*H・Social\* \*H・Social\* \*H・Social\*\*\*

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL：082-221-6613 FAX：082-221-6019 E-Mail [info@social-desk.net](mailto:info@social-desk.net)